

処遇改善に関する取り組み



1. 入職促進に向けた取組

- ◆法人や事業所の経営理念やケア方針・人材育成方針、その実現のための施策・仕組みなどの明確化

💡法人や事業所の経営理念など、ホームページに公開している。

- ◆職業体験の受入れや地域行事への参加や主催等による職業魅力度向上の取組の実施

💡高校で介護職員初任者研修課程を受講している生徒の実習を受け入れている。

2. 資質の向上やキャリアアップに向けた支援

- ◆働きながら介護福祉士取得を目指す者に対する実務者研修受講支援や、より専門性の高い介護技術を取得しようとする者に対するユニットリーダー研修、ファーストステップ研修、喀痰吸引、認知症ケア、サービス提供責任者研修、中堅職員に対するマネジメント研修の受講支援等

💡資格取得のための研修受講や、より専門性の高い介護技術取得のための支援実施、勤務形態に配慮している。

- ◆上位者・担当者等によるキャリア面談など、キャリアアップ・働き方等に関する定期的な相談の機会の確保

💡年間1～2回、職員の個人面談を実施している。

3. 両立支援・多様な働き方の推進

- ◆子育てや家族等の介護等と仕事の両立を目指す者のための休業制度等の充実、事業所内託児施設の整備

💡育児休暇の取得。

- ◆職員の事情等の状況に応じた勤務シフトや短時間正規職員制度の導入、職員の希望に即した非正規職員から正規職員への転換の制度等の整備

💡職員の希望に即した、臨時職員から正規職員への転換の機会を整備している。

- ◆有給休暇を取得しやすい雰囲気・意識作りのため、具体的な取得目標を定めた上で、取得状況を定期的に確認し、身近な上司等からの積極的な声かけを行っている

💡全職員が年間5日以上の有給休暇取得を実現している。

4. 腰痛を含む心身の健康管理

- ◆短時間勤務労働者等も受診可能な健康診断・ストレスチェックや、従業員のための休憩室の設置等健康管理対策の実施

💡年1回以上の全職員の健康診断の実施と、衛生委員会によるストレスチェックの実施等、職員の健康管理対策を実施している。

- ◆介護職員の身体の負担軽減のための介護技術の修得支援、職員に対する腰痛対策の研修、管理者に対する雇用管理改善の研修等の実施

💡機能訓練士等による介護技術の修得支援や、低床ベッド、スライドボード等の使用による腰痛対策を行っている。

- ◆事故・トラブルへの対応マニュアル等の作成等の体制の整備

💡事故発生時や苦情受付時の対応マニュアルを作成している。

5. 生産性向上(業務改善及び働く環境改善)のための取組

- ◆厚生労働省が示している「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築を行っている

💡タブレット端末や見守り機器の導入により、業務の負担軽減を図っている。

- ◆5S活動(業務管理の手法の1つ。整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字をとったもの)等の実践による職場環境の整備を行っている

💡環境整備、夜間保守、調理作業などで、年齢の高い職員が役割を担い活躍している。

- ◆業務手順書の作成や、記録・報告様式の工夫等による情報共有や作業負担の軽減を行っている

💡各種記録をデータ化し多職種が情報共有しやすくしている。

6. やりがい・働きがいの醸成

- ◆ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化による個々の介護職員の気づきを踏まえた勤務環境やケア内容の改善

💡リーダー会議やフロア会議において、職員個々の意見や気づきを話す機会を設け、勤務環境やケア内容の改善に努めている。

- ◆利用者本位のケア方針など介護保険や法人の理念等を定期的に学ぶ機会の提供

💡マニュアル説明会にて定期的に学ぶ機会を設けている。

- ◆ケアの好事例や、利用者やその家族からの謝意等の情報を共有する機会の提供

💡ケース会議への年1回以上の家族の参加や、家族向けアンケートの実施の他、適宜家族からの謝意等の情報はフロアノート等で共有するよう努めている。

